

(様式9)

梨大医事発第19号
平成22年10月 4日

関東信越厚生局長 殿

国立大学法人山梨大学長
前田 秀一郎

特定機能病院山梨大学医学部附属病院の業務に関する報告について

標記について、医療法(昭和23年法律第205号)第12条の3の規定に基づき、平成21年度の業務に関して報告します。

記

- 1 高度の医療の提供の実績 → 別紙参照(様式第10)
- 2 高度の医療技術の開発及び評価の実績 → 別紙参照(様式第11)
- 3 高度の医療に関する研修の実績

研修医の人数	86.0人
--------	-------

(注) 前年度の研修医の実数を記入すること。

- 4 診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の体系的な管理方法 → 別紙参照(様式第12)
- 5 診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法及び閲覧の実績 → 別紙参照(様式第13)
- 6 他の病院又は診療所から紹介された患者に対する医療提供の実績 → 別紙参照(様式第13)
- 7 医師、歯科医師、薬剤師、看護婦及び准看護婦、管理栄養士その他の従業者の員数

職種	常勤	非常勤	合計	職種	員数	職種	員数
医師	206人	165.0人	348.2人	看護補助者	17人	診療エックス線技師	人
歯科医師	4人	8.0人	11.2人	理学療法士	5人	臨床検査技師	33人
薬剤師	27人	4.0人	30.8人	作業療法士	2人	衛生検査技師	人
保健師	人	人	人	視能訓練士	2人	その他	人
助産師	21人	2人	22.6人	義肢装具士	人	あん摩マッサージ指圧師	人
看護師	436人	14人	445.8人	臨床工学技士	6人	医療社会事業従事者	3人
准看護師	人	人	人	栄養士	2人	その他の技術員	4人
歯科衛生士	1人	1人	1.8人	歯科技工士	1人	事務職員	59人
管理栄養士	4人	0人	4.0人	診療放射線技師	24人	その他の職員	60人

- (注) 1. 報告を行う当該年度の10月1日現在の員数を記入すること。
- 2. 栄養士の員数には、管理栄養士の員数に含めないで記入すること。
- 3. 「合計」欄には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を少数点以下2位を切り捨て、小数点以下1位まで算出して記入すること。

8 入院患者、外来患者及び調剤の数

歯科、矯正歯科及び小児歯科及び歯科口腔外科の入院患者及び外来患者の数

	歯科等以外	歯科等	合計
1日当たり平均入院患者数	469.7人	5.0人	474.7人
1日当たり平均外来患者数	1173.9人	57.7人	1231.6人
1日当たり平均調剤数	外来 633.9剤	入院 420.0剤	計 1053.9剤

- (注) 1. 「歯科等」欄には、歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科を受診した患者数を、「歯科等以外」欄にはそれ以外の診療科を受診した患者数を記入すること。
- 2. 入院患者数は、年間の各科別の入院患者延数(毎日の24時現在の在院患者数の合計)を暦日で除した数を記入すること。
- 3. 外来患者数は、年間の各科別の外来患者延数をそれぞれ病院の年間の実外来診療日で除した数を記入すること。
- 4. 調剤数は、年間の入院及び外来別の調剤延数をそれぞれ暦日及び実外来診療日数で除した数を記入すること。

4 特定疾患治療研究事業対象疾患についての診療

疾患名	取扱い患者数	疾患名	取扱い患者数
・ペーチェット病	25人	・モヤモヤ病(ウイリス動脈輪閉塞症)	10人
・多発性硬化症	46人	・ウェゲナー肉芽腫症	2人
・重症筋無力症	56人	・特発性拡張型(うっ血型)心筋症	44人
・全身性エリトマトーデス	95人	・多系統萎縮症	16人
・スモン	3人	・表皮水泡症(接合部型及び栄養障害型)	0人
・再生不良性貧血	24人	・膿疱性乾癬	2人
・サルコイドーシス	17人	・広範脊柱管狭窄症	4人
・筋萎縮性側索硬化症	33人	・原発性胆汁性肝硬変	24人
・強皮症, 皮膚筋炎及び多発性筋炎	62人	・重症急性膵炎	3人
・特発性血小板減少性紫斑病	45人	・特発性大腿骨頭壊死症	21人
・結節性動脈周囲炎	19人	・混合性結合組織病	8人
・潰瘍性大腸炎	55人	・原発性免疫不全症候群	1人
・大動脈炎症候群	9人	・特発性間質性肺炎	0人
・ビュルガー病	16人	・網膜色素変性症	34人
・天疱瘡	12人	・プリオン病	2人
・脊髄小脳変性症	48人	・原発性肺高血圧症	3人
・クローン病	29人	・神経繊維腫症	2人
・難治性の肝炎のうち劇症肝炎	1人	・亜急性硬化性全脳炎	0人
・悪性関節リウマチ	0人	・バッド・キアリ(Budd-Chiari)症候群	1人
・パーキンソン病関連疾患	78人	・突発性慢性肺血栓塞栓症(肺高血圧型)	1人
・アミロイドーシス	1人	・ライゾゾーム病(ファブリー(Fabry)病)含む	1人
・後縦靭帯骨化症	29人	・副腎白質ジストロフィー	1人
・ハンチントン病	0人		

(注)「取扱い患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

(様式10)

高度の医療の提供の実績

5 健康保険法の規定による療養に要する費用の額の算定方法に先進医療から採り入れられた医療技術

施設基準の種類	施設基準の種類
・膀胱水圧拡張術 ・エキシマレーザーによる治療的角膜切除術(角膜ジストロフィー又は帯状角膜変性に係るものに限る)	

(注)「施設基準等の種類」欄には、業務報告を行う3年前の4月以降に健康保険法の規定による療養に要する費用の額の算定方法(平成六年厚生省告示第五十四号)に先進医療(当該病院において提供していたものに限る)から採り入れられた医療技術について記入すること。

6 病院・臨床検査部門の概要

臨床検査及び病理診断を実施する部門の状況	①. 臨床検査部門と病理診断部門は別々である。 ②. 臨床検査部門と病理診断部門は同一部門にまとめられている。	
臨床部門が病理診断部門或いは臨床検査部門と開催した症例検討会の開催頻度	病理診断部門との開催状況 ※毎週開催 乳腺・甲状腺症例検討会 婦人科症例検討会 呼吸器症例検討会 皮膚科症例検討会 ※毎月開催 第一外科症例検討会 腎生検症例検討会(不定期)	
剖検の状況	剖検症例数 23例	剖検率 9.9 %

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1.研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額 千円	補助元又は委託元	
				補助元	委託元
RNA干渉を利用したアレルギー性鼻炎の新しい治療薬開発の基礎的研究	遠藤 周一郎	頭頸部・耳鼻咽喉科	1,170	補委	文部科学省
グルタミン酸トランスポーターを介したグリア細胞の網膜神経節細胞死調節の研究	古屋 敏江	眼科	2,210	補委	文部科学省
BMP-2遺伝子を用いた骨膜伸展骨形成法	小田 充匡	歯科口腔外科	1,040	補委	文部科学省
siRNA mTORによる静脈グラフト内膜肥厚抑制の検討	榊原 賢士	集中治療部	1,560	補委	文部科学省
C型肝炎患者肝細胞癌の転移機構解明を目的としたMTA-1発現に関する研究	浅川 真巳	集中治療部	1,690	補委	文部科学省
T細胞性白血病におけるLMO2過剰発現の機序と生物学的意義に対する検討	廣瀬 衣子	小児科	2,600	補委	文部科学省
急性リンパ性白血病に発現される骨髄球系抗原の解析	赤羽 弘資	小児科	2,730	補委	文部科学省
甲状腺転写因子TTF-1のエピジェネティクス制御と癌の分化誘導に関する研究	近藤 哲夫	人体病理学	780	補委	文部科学省
乳腺神経内分泌癌(B-NET)の発生機構およびその生物学的特性の病理学的解析	川崎 朋範	人体病理学	2,990	補委	文部科学省
大うつ病に対する片側性ECTの評価:脳血流と認知・記憶の関連研究	安田 和幸	精神科	2,080	補委	文部科学省
甲状腺ホルモン受容体を介した降糖β細胞増殖メカニズムの解析	古屋 文彦	内科学3	1,430	補委	文部科学省
A型ボツリヌス毒素は尿路の機械的センサーを抑制する?	工藤 祥司	泌尿器科	3,120	補委	文部科学省
性行為HIV感染におけるToll-like receptorの役割	小川 陽一	皮膚科	3,510	補委	文部科学省
HSV感染防御における皮膚由来マスト細胞の役割の解明	青木 類	皮膚科	3,510	補委	文部科学省
甲状腺癌とくに未分化癌におけるアデノシンレセプターの分子病理学的解析	中澤 匡男	病理部	3,380	補委	文部科学省
食道扁平上皮癌に対するHerceptin抗体療法の開発と耐性機序の解明	河口 賀彦	外科学1	2,080	補委	文部科学省
新規血小板活性化受容体CLEC-2:巨核球での役割とアダプタ蛋白CARD9の関与	井上 修	検査部	2,080	補委	文部科学省
卵およびES細胞質を用いたがん細胞の初期化・再分化療法の確立に向けての基礎的検討	深澤 宏子	産婦人科	1,430	補委	文部科学省
HDAC阻害剤によるALL細胞のアポトーシス・細胞周期停止・分化誘導のメカニズム	佐藤 広樹	小児科学	2,080	補委	文部科学省
新たなペプチド免疫療法開発へ向けての研究	松岡 伴和	頭頸部・耳鼻咽喉科	1,300	補委	文部科学省
頭頸部癌におけるB7-H3分子発現の免疫学的意義と臨床応用に関する研究	森山 元大	頭頸部・耳鼻咽喉科	2,210	補委	文部科学省
頭頸部癌微小環境におけるMDSCの分化・成熟と免疫抑制機構の解明	山本 卓典	頭頸部・耳鼻咽喉科	2,340	補委	文部科学省
大規模ウイルスゲノムワイド解析による慢性C型肝炎病態の包括的解明	榎本 信幸	内科学1	5,850	補委	日本学術振興会
ホスホリパーゼA2を基盤とする心血管病の成因解明と新しい予防・治療薬の探索	久木山 清貴	内科学2	2,340	補委	日本学術振興会
下部尿路知覚神経伝達におけるイオンチャネルの役割と新規治療応用に関する研究	武田 正之	泌尿器科学	6,110	補委	日本学術振興会
悪性黒色腫に対する新たな治療法開発の基礎研究	島田 眞路	皮膚科学	4,680	補委	日本学術振興会
新規血小板活性化受容体CLEC-2と生体内リガンドポドプラニンの血栓症での役割	尾崎 由基男	臨床検査医学	3,120	補委	日本学術振興会

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額 千円	補助元又は委託元
頭頸部癌における癌幹細胞の免疫学的解析と治療への応用	近松 一朗	頭頸部・耳鼻咽喉科	1,300	補委 日本学術振興会
タキサン系抗癌剤耐性分子の臨床的意義の解明と治療への応用	増山 敬祐	頭頸部・耳鼻咽喉科	1,560	補委 日本学術振興会
原発開放隅角緑内障感受性遺伝子の検索—ESR2遺伝子多型解析—	間瀬 文彦	眼科	2,340	補委 日本学術振興会
急性骨髄性白血病におけるNotch1シグナルの検討:新たな分化誘導療法をめざして	中村 誠	小児科	1,950	補委 日本学術振興会
難治性小児白血病に対する移植片対白血病効果における細胞傷害因子の臨床的意義の解明	犬飼 岳史	小児科	2,860	補委 日本学術振興会
甲状腺高悪性度腫瘍(低分化癌・未分化癌)の遺伝子異常プロファイルの多角的解析研究	加藤 良平	人体病理学	2,990	補委 日本学術振興会
最軽度アルツハイマー病脳における酸化傷害:認知機能障害発現との関連性	布村 明彦	精神科	1,430	補委 日本学術振興会
グリア病としての緑内障性視神経障害の発症解明と治療法探索	柏木 賢治	地域医療学	1,690	補委 日本学術振興会
脳虚血後神経新生におけるFABPと制御因子の解析	杉田 正夫	脳神経外科	1,690	補委 日本学術振興会
核内転写因子PPAR γ の虚血性神経細胞障害保護機構の解明	木内 博之	脳神経外科	2,600	補委 日本学術振興会
閉塞膀胱における膀胱の機能不全と小胞体ストレスとの関連についての研究	澤田 智史	泌尿器科	2,990	補委 日本学術振興会
間質性膀胱炎発症における酸感受性侵害受容器分子(ASICおよびTRPV1)の関与	荒木 勇雄	泌尿器科	1,950	補委 日本学術振興会
肝臓機能重視した新しい視点に基づく人工肝臓補助システムの開発	藤井 秀樹	外科学1	1,300	補委 日本学術振興会
新規癌拒絶抗原を用いた食道癌に対する癌ワクチン療法の開発	河野 浩二	外科学1	1,300	補委 日本学術振興会
炎症防御における自然免疫系を介した臓器相互関連の解析と、その臨床応用に関する研究	河野 寛	外科学1	2,210	補委 日本学術振興会
レーザー加工による極細繊維とメビオールジェルを用いた人工的生体血管の作成	進藤 俊哉	外科学2	1,950	補委 日本学術振興会
白血病発症におけるRUNX1遺伝子発現制御機構の解析	迫江 公己	血液・腫瘍内科	1,560	補委 日本学術振興会
体細胞核移植技術を応用した性ステロイドホルモン受容体遺伝子発現機構の解析	平田 修司	産婦人科学	1,560	補委 日本学術振興会
骨髄増殖性疾患における骨髄内低酸素環境破壊と正常造血抑制機構の解明	桐戸 敬太	腫瘍センター	2,860	補委 日本学術振興会
小児難治性悪性腫瘍に対する同種ナチュラルキラー細胞による抗腫瘍効果	合井 久美子	小児科学	1,430	補委 日本学術振興会
椎間板変性解明への分子生物学的アプローチと新しい治療法の確立	波呂 浩孝	整形外科	1,170	補委 日本学術振興会
C型肝炎ウイルス蛋白と相互作用する脂質ラフト構成宿主蛋白の解析	井上 泰輔	内科学1	1,560	補委 日本学術振興会
データ・マイニング解析、ウイルス遺伝子解析によるC型肝炎の病態解明	黒崎 雅之	内科学1	1,560	補委 日本学術振興会
C型肝炎ウイルス治療抵抗性における自然免疫の関与と難治要因の病態解明	朝比奈 靖浩	内科学1	1,560	補委 日本学術振興会
HCVゲノム解析による治療効果予測マーカーの開発	坂本 穂	内科学1	1,690	補委 日本学術振興会
抗ウイルス効果を規定するC型肝炎ウイルスゲノム領域の機能解明	前川 伸哉	内科学1	1,690	補委 日本学術振興会
TCF7L2遺伝子の発現と糖尿病発症における役割についての研究	會田 薫	内科学3	2,600	補委 日本学術振興会
GAD65-encoding DNAワクチンを用いた1型糖尿病の予防	小林 哲郎	内科学3	1,300	補委 日本学術振興会

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額 千円	補助元又は委託元
劇症1型糖尿病と自己免疫性膵炎に認められる膵特異的自己抗体の意義と臨床応用	遠藤 登代志	内科学3	2,730	補委 日本学術振興会
インドールアミン2,3-ジオキシゲナーゼの悪性グリア-マ免疫回避機構への影響	佐藤 英治	脳神経外科学	2,210	補委 日本学術振興会
皮膚悪性腫瘍の発生におけるAIDの関与	原田 和俊	皮膚科	1,170	補委 日本学術振興会
ヒトCD34陽性細胞移植NOGマウスを用いた経膈/経皮ウイルス感染モデルの開発	川村 龍吉	皮膚科	910	補委 日本学術振興会
細胞内導入ペプチドを用いた難治性皮膚疾患に対する治療薬開発の基礎研究	柴垣 直孝	皮膚科学	910	補委 日本学術振興会
血小板におけるアスピリン抵抗性の新規検査法の開発および糖尿病患者での解析	高野 勝弘	臨床検査医学	1,300	補委 日本学術振興会
新規血小板活性化受容体CLEC-2の第二リガンドの同定とその生体内機能の検討	井上 克枝	臨床検査医学	910	補委 日本学術振興会
新しい測定原理に基づく血小板凝集能検査の自動化ならびに全血法の開発	佐藤 金夫	臨床検査医学	1,560	補委 日本学術振興会
経頭蓋直流刺激のうつ病治療の可能性についての研究	本橋 伸高	精神科	1,000	補委 日本学術振興会
次世代大規模シーケンシング技術による慢性ウイルス性肝疾患の病態解明	榎本 信幸	内科学1	1,000	補委 日本学術振興会
ELシート発光ブレードの開発と新しい小切開手術の開拓	野村 照久	泌尿器科	1,800	補委 日本学術振興会
骨形成活性を有する生体材料を応用した骨膜伸展骨形成法の開発	原田 清	歯科口腔外科	1,400	補委 日本学術振興会
表皮の恒常性維持における亜鉛の役割の解明	島田 眞路	皮膚科	800	補委 日本学術振興会
薬剤耐性肝炎ウイルス感染の病態解明と対策に関する研究	榎本 信幸	内科学講座第1教室	59,623	補委 厚生労働省
ヒト肝細胞キメラマウスを用いた治療抵抗性の肝炎に関する研究	前川伸哉	肝疾患センター	3,000	補委 厚生労働省
ジェノミクス技術を用いたウイルス性肝炎に対する新規診断・治療法の開発	前川伸哉	肝疾患センター	2,500	補委 厚生労働省
データマイニング手法を用いた効果的なC型肝炎治療法に関する研究	坂本 穰	肝疾患センター	800	補委 厚生労働省
C型肝炎における新規治療法に関する研究	坂本 穰	肝疾患センター	1,500	補委 厚生労働省
肝炎に関する全国規模のデータベース構築に関する研究	井上泰輔	内科学講座第1教室	2,500	補委 厚生労働省
運動失調症の病態解明と治療法開発に関する研究	瀧山 嘉久	神経内科学講座	1,800	補委 厚生労働省
スモンに関する調査研究(山梨県におけるスモン患者の病態)	瀧山 嘉久	神経内科学講座	700	補委 厚生労働省
精神科薬物療法アルゴリズムの最適化と均てん化に関する研究	本橋 伸高	精神神経医学講座	500	補委 厚生労働省
抗HIV薬の適正使用と効果・毒性に関する基礎的研究	川村龍吉	皮膚科学講座	3,000	補委 厚生労働省
早期前立腺がんにおける根治術後の再発に関する標準的治療法の確立に関する研究	座光寺 秀典	泌尿器科学講座	300	補委 厚生労働省
リアルタイムモニター花粉数の情報のあり方の研究と舌下へフグド・アジュバント療法の臨床研究	増山 敬祐	耳鼻咽喉科・頭頸部外科学講座	2,000	補委 厚生労働省
がんの診療科データベースとJapanese National Cancer Database(JNCDB)の構築と運用	大西 洋	放射線医学講座	600	補委 厚生労働省
高精度治療技術による低リスク高線量放射線治療に関する臨床研究	大西 洋	放射線医学講座	700	補委 厚生労働省
医療の質の向上のための医療情報利活用における標準化と相互運用性推進に関する諸課題の研究	佐藤 弥	地域医療学講座	1,500	補委 厚生労働省

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額 千円	補助元又は委託元
在宅医療への遠隔医療実用実施手順の策定	柏木 賢治	地域医療学講座	300	補委 厚生労働省
気分障害の治療システムの開発と検証に関する研究	本橋 伸高	精神神経医学	1,000	補委 国立精神・神経センター
小児期特異的血液疾患の分子遺伝子学的解析	杉田 完爾	小児科学	1,000	補委 国立成育医療センター
循環器系シグナローム解析による疾患・病態解明のための基盤研究	尾崎 由基男	臨床検査医学	2,000	補委 国立循環器病センター
循環器疾患の地域連携バスの効果的運用システムの確立に関する研究	木内 博之	脳神経外科学	1,300	補委 国立循環器病センター
途上国における医療サービスおよび臨床研究の質の向上のための臨床検査関連システムの構築に関する研究	尾崎 由基男	検査部	2,000	補委 国立国際医療センター
C型肝炎ウイルス増殖機構解析によるsiRNA治療標的の同定	榎本 信幸	内科学1	3,500	補委 (独)医薬基盤研究所
超磁歪素子を用いた補聴器用骨電導デバイスの開発	遠藤 周一郎	耳鼻咽喉科・頭頸部外科学	833	補委 (独)科学技術振興機構
穿刺吸引細胞診検体を用いたメチル化プロファイリング診断法の開発	近藤 哲夫	人体病理学	2,000	補委 (独)科学技術振興機構
心筋梗塞易発症ウサギ(WHHLMI)を用いた血液流動性とスタチンによる高脂血症治療との関連性における解析	尾崎 由基男	臨床検査医学	2,000	補委 第一三共(株)
すばるMicro Catheterの性能評価	坂本 稔	肝疾患センター	546	補委 センチュリーメディカル(株)
全自動化学発光免疫測定システム ビトロス3600の評価	尾崎 由基男	検査部	525	補委 オーソ・クリニカル・ダイアグノスティクス(株)
アルカリ性ホスファターゼ測定試薬の評価	尾崎 由基男	検査部	409	補委 和光純薬工業(株)
治癒切除結腸癌(Stage III)を対象としたフッ化ピリミジン系薬剤を用いた術後補助化学療法の個別化治療に関するコホート研究	飯野 弥	外科学1	73	補委 (財)先端医療振興財団
キャピオックスFXシリーズにおける低ヘマトクリットに対する標準回路(プレコネクト回路含)仕様の有用性に関する臨床評価	鈴木 章司	外科学2	750	補委 テルモ(株)心臓血管カンパニーCVグループ
ラットTNBS誘発IBDモデルを用いたMCTとn-3系脂肪酸の抗炎症作用と消化管粘膜保護作用の検討	河野 寛	外科学1	1,200	補委 イーエヌ大塚製薬(株)
自己免疫性膵炎及び劇症1型糖尿病の検査試薬の開発	小林 哲郎	内科学3	115	補委 (株)コスミックコーポレーション

計100件

(注)1.国、地方公共団体又は公益法人からの補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に属する医師等が申請する前年度行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。

2「研究者名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入すること。

3「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」、委託の場合は「委」、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

2 論文発表等の実績

No.	雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
1	Cancer Sci. 2009 Oct;100(10):1923-30. Epub 2009 Jul 2.	DICKKOPF-4 and-2 genes are upregulated in human colorectal ca	Matsui A, Yamaguchi T, Maekawa S, Miyazaki C, Takano S, Uetake T, Inoue T, Otaka M, Otsuka H, Sato T, Yamashita A, Takahashi Y, Enomoto N.	第一内科
2	Hepato Res. 2009 Jan;39(1):60-9. Epub 2008 Jul 20	Two flavonoids extracts from Glycyrrhizae radix inhibit in vitro hepatitis C virus replication	Sekine-Osajima Y, Sakamoto N, Nakagawa M, Itsui Y, Tasaka M, Nishimura- Sakurai Y, Chen CH, Suda G, Mishima K, Onuki Y, Yamamoto M, Maekawa S, Enomoto N, Kanai T, Tsuchiya K, Watanabe M.	第一内科
3	J Gastroenterol. 2010 Jan 30	Mutations in the interferon sensitivity determining region and virological response to combination therapy with pegylated-interferon alpha 2b plus ribavirin in patients with chronic hepatitis C-1b infection	Nakagawa M, Sakamoto N, Ueyama M, Mogushi K, Nagaie S, Itsui Y, Azuma S, Kakinuma S, Tanaka H, Enomoto N, Watanabe M	第一内科
4	Intervirology. 2010;53(1):66- 9. Epub 2010 Jan 5.	HCV genetic elements determining the early response to peginterferon and ribavirin therapy	Enomoto N, Maekawa S	第一内科
5	Hepato Res. 2010 Feb;40(2):135-44. Epub 2009 Sep 25.	Prolonged treatment with pegylated interferon alpha 2b plus ribavirin improves sustained virological response in chronic hepatitis C genotype 1 patients with late response in a clinical real-life setting in Japan	Watanabe S, Enomoto N, Koike K, Izumi N, Takikawa H, Hashimoto E, Moriyasu F, Kumada H, Imawari M; PERFECT Study Group	第一内科
6	J Gastroenterol. 2010 Feb;45(2):195-203. Epub 2009 Sep 17	Inhibition of hepatitis C virus replication by chloroquine targeting virus-associated autophagy	Mizui T, Yamashina S, Tanida I, Takei Y, Ueno T, Sakamoto N, Ikejima K, Kitamura T, Enomoto N, Sakai T, Kominami E, Watanabe S.	第一内科
7	Hepato Res. 2010 Mar 1;40(3):251-60. Epub 2010 Jan 11.	A predictive model of response to peginterferon ribavirin in chronic hepatitis C using classification and regression tree analysis	Kurosaki M, Matsunaga K, Hirayama I, Tanaka T, Sato M, Yasui Y, Tamaki N, Hosokawa T, Ueda K, Tsuchiya K, Nakanishi H, Ikeda H, Itakura J, Takahashi Y, Asahina Y, Higaki M, Enomoto N, Izumi N, Nishimura-Sakurai Y,	第一内科
8	J Gastroenterol. 2010 May;45(5):523-36. Epub 2009 Dec 12	Comparison of HCV-associated gene expression and cell signaling pathways in cells with or without HCV replicon and in replicon-cured cells.	Sakamoto N, Mogushi K, Nagaie S, Nakagawa M, Itsui Y, Tasaka-Fujita M, Onuki-Karakama Y, Suda G, Mishima K, Yamamoto M, Ueyama M, Funaoka Y, Watanabe T, Azuma S.	第一内科
9	Atherosclerosis 203(2):483- 488	Rapid improvement of carotid plaque echogenicity within 1 month of pioglitazone treatment in patients with acute coronary syndrome.	Mitsumasa HIRANO, Takamitsu NAKAMURA, Yoshinobu KITTA, Toshiaki YANO, Tsuyoshi KOBAYASHI, Keita SANO, Daisuke FUJIOKA, Yukio SAITO, Yasushi KODAMA, Ken-ichi KAWABATA, Kazuto NAKAMURA	第二内科
10	Thrombosis Research 123(6):856-861	Measurement of the platelet retention rate in a column of collagen-coated beads is useful for the assessment of efficacy of antiplatelet therapy.	Akira MENDE, Jun- ei OBATA, Keita SANO, Mitsumasa HIRANO, Yoshinobu KITTA, Yasushi KODAMA, Takamitsu NAKAMURA, Ken-ichi KAWABATA, Yukio SAITO, Daisuke FUJIOKA, Tsuyoshi KOBAYASHI, K SAITO, Y	第二内科

No.	雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
11	Trends in cardiovascular medicine 19(3):100-103	Novel insights of secretory phospholipase A ₂ action in cardiology.	Daisuke FUJIOKA, Kiyotaka KUGIYAMA	第二内科
12	Circulation. Cardiovascular interventions 2(5):384-391	Treatment of acute myocardial infarction with sirolimus-eluting stents results in chronic endothelial dysfunction in the infarct-related coronary artery.	Jun-ei OBATA, Takamitsu NAKAMURA, Yoshinobu KITTA, Yasushi KODAMA, Keita SANO, Ken-ichi KAWABATA, Yukio SAITO, Daisuke FUJIOKA, Tsuyoshi KOBAYASHI, Toshiaki YANO, Yousuke WATANABE, Kazuhiro WATANABE	第二内科
13	International journal of cardiology [Epub ahead of print]	Endothelial vasomotor dysfunction in the brachial artery predicts the short-term development of early stage renal dysfunction in patients with coronary artery disease.	Takamitsu NAKAMURA, Jun-ei OBATA, Mitsumasa HIRANO, Yoshinobu KITTA, Keita SANO, Tsuyoshi KOBAYASHI, Daisuke FUJIOKA, Yukio SAITO, Toshiaki YANO, Ken-ichi KAWABATA, Kazuhiro WATANABE, Yousuke	第二内科
14	Cardiovascular & hematological agents in medicinal chemistry	The role of intravascular ultrasound to guide drug-eluting stents implantation.	Nakamura T, Chen JP, Panchal D, Nguyen T, King SB 3rd, Chronos N, Hou D	第二内科
15	Cardiovascular research 85(4):785-795	Mice lacking the glutamate-cysteine ligase modifier subunit are susceptible to myocardial ischaemia-reperfusion injury.	Tsuyoshi KOBAYASHI, Yousuke WATANABE, Yukio SAITO, Daisuke FUJIOKA, Takamitsu NAKAMURA, Jun-ei OBATA, Yoshinobu KITTA, Toshiaki YANO, Ken-ichi KAWABATA, Kazuhiro WATANABE, Hideto MISHINA	第二内科
16	Experimental lung research 36(4):191-200	Inhibition of secretory phospholipase A ₂ activity attenuates lipopolysaccharide-induced acute lung injury in a mouse model.	Ryoya SATO, Satoshi YAMAGA, Kazuyoshi WATANABE, Sensuke HISHIYAMA, Ken-ichi KAWABATA, Tsuyoshi KOBAYASHI, Daisuke FUJIOKA, Yukio SAITO, Toshiaki YANO, Kazuhiro WATANABE	第二内科
17	Atherosclerosis [Epub ahead of print]	Assessment of carotid plaque echolucency in addition to plaque size increases the predictive value of carotid ultrasound for coronary events in patients with coronary artery disease and mild carotid atherosclerosis.	Mitsumasa HIRANO, Takamitsu NAKAMURA, Yoshinobu KITTA, Keita SANO, Yasushi KODAMA, Tsuyoshi KOBAYASHI, Daisuke FUJIOKA, Yukio SAITO, Toshiaki YANO, Kazuhiro WATANABE, Yousuke	第二内科
18	J Clin Endocrinol Metab, 2009, 94(3): 947-952.	Genetic Association between the Interleukin-2 Receptor- α Gene and Mode of Onset of Type 1 Diabetes in the Japanese Population.	Eiji Kawasaki, Takuya Awata, Hiroshi Ikegami, Tetsuro Kobayashi, Taro Maruyama, Koji Nakanishi, Akira Shimada, Miho Uga, Susumu Kurihara, Yumiko Kawabata, Shoichiro Tanaka, Yasuhiko Kanazawa	第三内科
19	Diabetologia 52:2513-2521, 2009	Differential association of HLA with three subtypes of type 1 diabetes: fulminant, slowly progressive and acute-onset.	Y. Kawabata, H. Ikegami, T. Awata, A. Imagawa, T. Maruyama, E. Kawasaki, S. Tanaka, A. Shimada, H. Osawa, T. Kobayashi, T. Hanafusa, K. Tokunaga, H. Makino, on behalf of the Committee on Type 1	第三内科
20	Diabetes 58:2285-2291, 2009	Enterovirus Infection, CXC Chemokine Ligand 10 (CXCL10), and CXCR3 Circuit -A Mechanism of Accelerated Beta-Cell Failure in Fulminant Type 1 Diabetes-	Shoichiro Tanaka, Yoriko Nishida, Kaoru Aida, Taro Maruyama, Akira Shimada, Masako Suzuki, Hiroki Shimura, Soichi Takizawa, Masashi Takahashi, Daiichiro Akiyama, Sayaka Arai, Yamashita Fumihiko	第三内科

No.	雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
21	Journal of Endocrinology 202:217-222, 2009.	Immunization with thyroglobulin induces Graves' -like disease in mice.	Toyoshi Endo and Tetsuro Kobayashi	第三内科
22	Journal of Medical Virology 81: 1584-1590, 2009.	Losartan Reduces the Onset of Type 2 Diabetes in Hypertensive Japanese Patients With Chronic Hepatitis C.	Yasuji Arase, Fumitaka Suzuki, Yoshiyuki Suzuki, Norio Akuta, Masahiro Kobayashi, Yusuke Kawamura, Hiromi Yatsuji, Hitomi Sezaki, Tetsuya Hosaka, Miharu Hirakawa, Satoshi Saito, Kenji	第三内科
23	J Gastroenterol 44(10): 1064-1070, 2009.	Multivariate analysis of risk factors for the development of type 2 diabetes in nonalcoholic fatty liver disease.	Yasuji Arase, Fumitaka Suzuki, Kenji Ikeda, Hiromitsu Kumada, Hiroshi Tsuji, Tetsuro Kobayashi	第三内科
24	Biochem Biophys Res Commun 386 : 192-196, 2009.	HSP-10 is a new autoantigen in both autoimmune pancreatitis and fulminant type 1 diabetes.	Takizawa S, Endo T, Xing Wanxia, Tanaka S, Kobayashi T.	第三内科
25	Diabetes 58: 732-737, 2009.	Amylase alpha-2A autoantibodies: Novel Marker of Autoimmune Pancreatitis and Fulminant Type 1 Diabetes .	Toyoshi Endo, Soichi Takizawa, Shoichiro Tanaka, Masashi Takahashi, Hideki Fujii, Terumi Kamisawa, and Tetsuro Kobayashi	第三内科
26	Journal of the Neurological Sciences, 276:88-94	Clinical and histopathological features of progressive-type familial amyloidotic polyneuropathy with TTR Lys54.	Nagasaka T, Togashi S, Watanabe H, Iida H, Nagasaka K, Nakamura Y, Miwa M, Kobayashi F, Shindo K, Shiozawa Z	神経内科
27	Molecular cancer therapeutics. 2009;8:2329-2338	Inhibition of hypoxia-inducible factor-1 function enhances the sensitivity of multiple myeloma cells to melphalan.	Hu Y, Kirito K, Yoshida K, Mitsumori T, Nakajima K, Nozaki Y, Hamanaka S, Nagashima T, Kunitama M, Sakoe K, Komatsu N.	血液・腫瘍内科
28	Cell cycle. 2009;8:2844-2849	HIF-1 prevents the overproduction of mitochondrial ROS after cytokine stimulation through induction of PDK-1.	Kirito K, Hu Y, Komatsu N.	血液・腫瘍内科
29	Blood. 2010, in press	FOXO3A as a key molecule for all-trans retinoic acid-induced granulocytic differentiation and apoptosis in acute promyelocytic leukemia.	Sakoe Y, Sakoe K, Kirito K, Ozawa K, Komatsu N.	血液・腫瘍内科

No.	雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
30	American Journal of Medical Genetics Part B-Neuropsychiatric Genetics 150B:1110-1117	Preliminary genome-wide association study of bipolar disorder in the Japanese population.	Hattori E, Toyota T, Ishitsuka Y, Iwayama Y, Yamada K, Ujike H, Morita Y, Kodama M, Nakata K, Minabe Y, Nakamura K, Iwata Y, Takei N, Mori N, Naitoh H, Yamanouchi Y, Iwata N, Ozaki N, Kato T, Nishikawa T, Kashiwa A, Suzuki M, Shioe K, Shinohara M, Hirano M, Nanko S, Akahane A, Ueno M, Kaneko N, Watanabe Y, Someya T, Hashimoto K, Iyo M, Itokawa M, Arai M, Nankai M, Inada T, Yoshida S, Kunugi H, Nakamura M, Iijima Y, Okazaki Y, Higuchi T, Yoshikawa T	精神科
31	American Journal of Pathology 174:891-897	The neuronal expression of MYC causes a neurodegeneration phenotype in a novel transgenic mouse.	Lee HG, Casadesus G, Nunomura A, Zhu X, Castellani RJ, Richardson SL, Perry G, Felsher DW, Petersen RB, Smith MA	精神科
32	Archives of Neurology 66:1445	Natural oxidant balance in Parkinson disease.	Perry G, Moreira PI, Siedlak SL, Nunomura A, Zhu X, Smith MA	精神科
33	World Journal of Biological Psychiatry 11:2-18	World Federation of Societies of Biological Psychiatry (WFSBP) guidelines on brain stimulation treatments in psychiatry.	Schlaepfer T, Mark G, Mayberg H on behalf of the WFSBP Task Force on Brain Stimulation (Schlaepfer, T (chair), Mark G (co-chair), Mayberg H (co-chair), Padberg F (secretary), Andrade C, Conca A, da Costa D, Eschweiler G, Fink M, Fitzgerald P, Gabriels L, Geretsegger C, Greenberg B, Holtzheimer P, Jasulaitis M, Krystal A, Levkovitz Y, Lijtenstein D, Lisanby S, Mitchell P, Motohashi N, Naderi-Heiden A, Otegui J, Sackeim H, Tsukarzi E, Zervas I)	精神科
34	Neurobiology of Disease 37:731-737	Intraneuronal amyloid β accumulation and oxidative damage to nucleic acids in Alzheimer disease.	Nunomura A, Tamaoki T, Tanaka K, Motohashi N, Nakamura M, Hayashi T, Yamaguchi H, Shimohama S, Lee HG, Zhu X, Smith MA, Perry G	精神科
35	BLOOD. 113 (21):5157-5166. 2009	Gram-positive bacteria enhance HIV-1 susceptibility in Langerhans cells, but not in dendritic cells, via Toll-like receptor activation.	Ogawa Y, Kawamura T, Kimura T, Ito M, Blauvelt A, Shimada S.	皮膚科
36	Clin Exp Dermatol. 34(8):923-924. 2009	Psoriasiform eruption associated with alopecia areata during infliximab therapy.	Nakagomi D, Harada K, Yagasaki A, Kimura M, Shibagaki N, Shimada S.	皮膚科

No.	雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
37	J Eur Acad Dermatol Venereol. 23(4):394-401. 2009	A clinical study of Henoch Schönlein Purpura associated with malignancy.	Mitsui H, Shibagaki N, Kawamura T, Matsue H, Shimada S.	皮膚科
38	British Journal of Dermatology. 162(1):29-41. 2010	Intradermal Injections of Polyarginine-containing immunogenic Antigens Preferentially Elicit Tc1 and Th1 Activation and Antitumor Immunity.	Mitsui H, Okamoto T, Kanzaki M, Inozume T, Shibagaki N, Shimada S.	皮膚科
39	Journal of the American Academy of Dermatology. 62(4):681-684. 2010	A Case of Lymphoepithelioma-like Carcinoma of the Skin associated with Epstein-Barr virus infection.	Aoki R., Mitsui H., Harada K., Kawamura T., Shibagaki N., Tsukamoto K., Murata S., Shimada S.	皮膚科
40	臨床皮膚科. 63(4):305-308. 2009	熱傷瘢痕に生じ植皮片上に拡大した悪性黒色腫の1例.	山口美由紀, 岡本崇, 鈴木収二, 原田和俊, 川村龍吉, 柴垣直孝, 島田眞路	皮膚科
41	皮膚科の臨床. 51(10):1303-1306. 2009	潰瘍を形成した下腿悪性末梢神経鞘腫の1例.	山口美由紀, 鈴木収二, 矢ヶ崎晶子, 原田和俊, 川村龍吉, 柴垣直孝, 島田眞路	皮膚科
42	Skin Cancer. 24(2):250-253. 2009	多形型脂肪肉腫の1例.	中込大樹, 矢ヶ崎晶子, 原田和俊, 川村龍吉, 柴垣直孝, 島田眞路	皮膚科
43	Skin Cancer. 24(2):225-228. 2010	皮膚生検より診断し得たintravascular Large B-cell Lymphomaの1例.	中込大樹, 矢ヶ崎晶子, 原田和俊, 川村龍吉, 柴垣直孝, 森口武史, 松田兼一, 三森徹	皮膚科
44	臨床皮膚科. 64(1):17-20. 2010	難治性下腿潰瘍を伴ったクリオグロブリン血症の1例.	中込大樹, 原田和俊, 小川陽一, 安藤典子, 川村龍吉, 柴垣直孝, 島田眞路	皮膚科
45	Visual Dermatology. 63(1):9(2):170-172. 2010	erosive pustular dermatosis of the scalp.	青木類, 安藤典子, 島田眞路	皮膚科
46	日皮会誌. 120(1):31-35. 2010	Nephrogenic Sytemic Fibrosisの1例.	原田和俊, 佐野信也, 安藤典子, 川村龍吉, 柴垣直孝, 高橋省三, 島田眞路	皮膚科

No.	雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
47	皮膚科の臨床: 52(3):379-382. 2010	粘膜症状を伴ったデフェラシロクス懸濁用錠によると考えた多形紅斑型薬疹の1例.	小川陽一、川村龍吉、島田眞路	皮膚科
48	皮膚臨床: 52(3):327-331. 2010	ソラフェニブによる手足症候群の4例.	花輪書絵、出口順啓、原田和俊、川村龍吉、柴垣直孝、島田眞路	皮膚科
49	皮膚臨床: 52(3):488-489Visual Dermatology:63(1): 9(2):170-172. 2010	右拇指後爪郭に生じた無色素性表在型基底細胞癌の1例.	中込大樹、原田和俊、鈴木収二、川村龍吉、柴垣直孝、島田眞路	皮膚科
50	皮膚病診療: 32(5):491-494. 2010	Palmoplantar lichen planus.	安藤典子、青木類、原田和俊、川村龍吉、柴垣直孝、島田眞路	皮膚科
51	World J Surg, 33(12):2644-50	Chronic schistosomiasis japonica is an independent adverse prognostic factor for survival in hepatocellular carcinoma patients who have undergone hepatic resection: clinicopathological and prognostic analysis of 198 consecutive patients.	Matsuda M, Fujii H	消化器外科、乳腺・内分泌外科
52	Int J Clin Oncol, 14(3):245-8	Complete remission of multiple recurrent hepatocellular carcinomas by oral administration of enteric-coated tegafur/uracil in a patient with huge hepatocellular carcinoma extending to the inferior vena cava after hepatic resection: analysis of mRNA expression of fluoropyrimidine metabolism enzymes in the primary tumor.	Matsuda M, Shiba S, Asakawa M, Kono H, Fujii H	消化器外科、乳腺・内分泌外科
53	Cancer Sci, 100(8):1502-1509	Vaccination with Multiple Peptides derived from Novel Cancer-Testis Antigens Can Induce Specific T-Cell Responses and Clinical Responses in Advanced Esophageal cancer.	Kono K, Mizukami Y, Daigo Y, Takano A, Masuda K, Yoshida K, Tsunoda T, Kawaguchi Y, Nakamura Y, and Fujii H	消化器外科、乳腺・内分泌外科
54	J Gastroenterol, 44(9):983-90	Dietary olive oil prevents carbon tetrachloride-induced hepatic fibrosis in mice.	Tanaka N, Kono H, Ishii K, Hosomura N, Fujii H	消化器外科、乳腺・内分泌外科
55	Anticancer Res, 29(6):2137-46	Mechanisms of escape from trastuzumab-mediated ADCC in esophageal squamous cell carcinoma: relation to susceptibility to perforin-granzyme.	Kawaguchi Y, Kono K, Mizukami Y, Mimura K, Fujii H	消化器外科、乳腺・内分泌外科
56	Yamanashi Med. J., 24:55-64	Deficiency of macrophage colony-stimulating factor attenuates DSS-induced colitis in mice.	Ishii K, Kono H, Ogiku M, Hosomura N, Tsuchiya M, Bradford BU, Rusyn I, and Fujii H	消化器外科、乳腺・内分泌外科

No.	雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
57	Br J Cancer. 102(3):520-9	Interleukin-21 can efficiently restore impaired antibody-dependent cell-mediated cytotoxicity in patients with oesophageal squamous cell carcinoma.	Watanabe M, Kono K, Kawaguchi Y, Mizukami Y, Mimura K, Maruyama T, Fujii H	消化器外科、乳 腺・内分泌外科
58	Transl Res. 155(3):131-41	Dietary medium-chain triglycerides prevent chemically induced experimental colitis in rats.	Kono H, Fujii H, Ishii K, Hosomura N, Ogiku M	消化器外科、乳 腺・内分泌外科
59	Dis Esophagus. (Epub ahead of print)	CCL17 and CCL22 chemokines within tumor microenvironment are related to infiltration of regulatory T cells in esophageal squamous cell carcinoma.	Maruyama T, Kono K, Izawa S, Mizukami Y, Kawaguchi Y, Mimura K, Watanabe M, Fujii H	消化器外科、乳 腺・内分泌外科
60	J. Surg. Res. (Epub ahead of print)	Role of Macrophage Colony-Stimulating Factor in Polymicrobial Sepsis According to Studies Using Osteopetrotic (op/op) Mice.	Ogiku M, Kono H, Ishii K, Hosomura N, Fujii H	消化器外科、乳 腺・内分泌外科
61	J. Surg. Res. (Epub ahead of print)	Liver regeneration is impaired in macrophage colony stimulating factor deficient mice after partial hepatectomy: the role of M-CSF-induced macrophages.	Amemiya H, Kono H, and Fujii H	消化器外科、乳 腺・内分泌外科
62	Asian Cardiovascular & Thoracic Annals 17(2):203-205:2009	Long-Term Survival of Uhl's Anomaly With Total Cavopulmonary Conversion	Koki T, Shoji S, Yoshihiro H, Shigeaki K, Hidenori I, Masahiko M	第二外科
63	Circulation Journal 73(4):776-778:2009	Recovery of Carddiomegaly After Treatment of Traumatic Popliteal Arteriovenous Fistula	Shunya S, Yoshihiro H, Masatake K, Shigeaki K, Hidenori I, Masahiko M	第二外科
64	Asian Cardiovascular & Thoracic Annals 17(6):660-661:2009	Heart and Great Vessels after Mediastinal Irradiation	Yuki O, Masahiko M, Hidenori I, Masatake K	第二外科
65	10.1016/j.knee 2009.11.002	Intraarticular nodular fasciitis causing limitation of knee extension: A case report.	Hagino T, Ochiai S, Sato E, Watanabe Y, Senga S, Kondo T, Haro H.	整形外科
66	J. Orthop Res 2009;27:229-35.	TNF-alpha-induced NF-kappaB signaling reverses age-related declines in VEGF induction and angiogenic activity in intervertebral disc tissues.	Ohba T, Haro H, Ando T, Wako M, Suenaga F, Aso Y, Koyama K, Hamada Y, Nakao A.	整形外科

No.	雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
67	Arch Orthop Trauma Surg 30/3, 397-9 2010	Health-related quality of life in patients with an anterior cruciate ligament injury.	Ochiai S, Hagino T, Tonotsuka H, Haro H.	整形外科
68	Rheumatol Int 2009;29:713-5.	Successful treatment of SAPHO syndrome with an oral bisphosphonate.	Ichikawa J, Sato E, Haro H, Ando T, Maekawa S, Hamada Y.	整形外科
69	Mod Pathol 2009;22:1328-40.	EGFR-dependent and independent activation of Akt/mTOR cascade in bone and soft tissue tumors.	Dobashi Y, Suzuki S, Sato E, Hamada Y, Yanagawa T, Ooi A.	整形外科
70	J Orthop Traumatol 2009;10:119-22.	The relationship between anemia at admission and outcome in patients older than 60 years with hip fracture.	Hagino T, Ochiai S, Sato E, Maekawa S, Wako M, Haro H.	整形外科
71	J Nutr 2009;139:69-75.	Transforming growth factor-beta activity in commercially available pasteurized cow milk provides protection against inflammation in mice.	Ozawa T, Miyata M, Nishimura M, Ando T, Ouyang Y, Ohba T, Shimokawa N, Ohnuma Y, Katoh R, Ogawa H, Nakao A.	整形外科
72	J Immunol 2009;183:1368-74.	A subcytotoxic dose of subtilase cytotoxin prevents lipopolysaccharide-induced inflammatory responses, depending on its capacity to induce the unfolded protein response.	Harama D, Koyama K, Mukai M, Shimokawa N, Miyata M, Nakamura Y, Ohnuma Y, Ogawa H, Matsuoka S, Paton AW, Paton JC, Kitamura M, et al.	整形外科
73	Yamanashi Medical Journal: 2009;24(3):83-88	Meniscal Ganglion Cysts without Accompanying Meniscal Tears: A Report of 2 Cases.	Ochiai S, Hagino T, Wako M, Anayama S, Kohno H, Hamada Y.	整形外科
74	脊髄外科 23 (1) : 57-61, 2009	頰椎症性脊髄症例に対する外科治療効果判定における包括的健康関連尺度 (SF-36v2) の有用性についての前向き検討	内田幹人、堀越徹、渡辺新、木内博之	脳神経外科
75	Jpn J Neurosurg 19(2): 133-140, 2010	脳動脈瘤クリッピング術の術前画像検査と戦術上重要な術中所見	木内博之	脳神経外科
76	Neurochem Int. 2009 May-Jun;54(5-6):363-71.	Chronic citalopram treatment elevates serotonin synthesis in flinders sensitive and flinders resistant lines of rats, with no significant effect on Sprague-Dawley rats.	Kanemaru K, Nishi K, Hasegawa S, Diksic M.	脳神経外科

No.	雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
77	Neurochem Int. 2009 Dec;55(7):529-35.	AGN-2979, an inhibitor of tryptophan hydroxylase activation, does not affect serotonin synthesis in Flinders Sensitive Line rats, a rat model of depression, but produces a significant effect in Flinders Resistant Line rats.	Kanemaru K, Nishi K, Diksic M.	脳神経外科
78	Neurochem Int. 2009 Dec;55(7):655-61	The Flinders Sensitive Line of rats, a rat model of depression, has elevated brain glucose utilization when compared to normal rats and the Flinders Resistant Line of rats.	Kanemaru K, Diksic M.	脳神経外科
79	Neurol Med Chir (Tokyo) 50(3):228-231	Anaplastic ganglioglioma with malignant features in both neuronal and glial components -Case report.	Kawataki T, Sato E, Sato T, Kinouchi H	脳神経外科
80	山梨医科学雑誌24(3):75-81	マウス清掃へのin vivo遺伝子導入による外来遺伝子の発現の検討	鈴木 真梨子 正田 朋子 平田 修司 星 和彦	産婦人科
81	Reprod Domest Anim44(4):634- 637	Long-Time Exposure of Mouse Embryos to the Sperm Produces High Levels of Reactive Oxygen Species in Culture Medium and Relates to Poor Embryo Development.	Enkhmaa Davaasambuu Tsuyoshi KASAI Kazuhiko HOSHI	産婦人科 生殖医療セン ター
82	Biosci Biotechnol Biochem73(80764):1-4	Expression of rat sperm flagellum-movement associated genes under 2, 3, 7, 8-tetrachlorodibenzo-p-dioxin treatment.	Yoshiaki YAMANO Atsusi ASANO Masanori OHTA Shuji HIRATA Tomoko SHODA Kenji OHYAMA	産婦人科
83	Journal of Reproductive Immunology84:117-123	Fetal cell microchimerism develops through the migration of fetus-derived cells to the maternal organs early after implantation	Rei SUNAMI Mayuko KOMURO Tutomu YUMINAMACHI Kazuhiko HOSHI Shuji HIRATA	産婦人科 地域医療学等講 座
84	山梨医学 37:140-142	女性骨盤臓器脱に対するソフトプロリンメッシュを用いた骨盤低形成術(Tension-free Vaginal Mesh:TVM手術)の成績	荒木 勇雄 羽根田 破 澤田 智史 三神 裕紀 小林 英樹 武田 正之 端 晶彦 平田 修司 星 和彦	泌尿器科学
85	Journal of Signal Processing 13(6):525-530	Elemental Study on the Application of Amplitude-Bandwidth Compression/Expansion Method for Improving Noise-Tolerance in Auscultatory Health Monitoring Equipment	Yutaka Suzuki Asobu Hattori Takaya Kato Osamu Sakata Mizuya Fukasawa	泌尿器科学
86	Int Urogynecol J 20:1301- 1306	Incontinence and detrusor dysfunction associated with pelvic organ prolapse: clinical value of preoperative urodynamic evaluation	Isao Araki Yaburu Haneda Yuuki Mikami Masayuki Takeda	泌尿器科学

No.	雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
87	臨床泌尿器科 63(8):603-607	副腎皮質癌7例の治療成績	座光寺 秀典 土田 幸之 川口 真琴 三神 裕紀 萱沼 賢司 野村 照久 深澤 瑞也 荒木 勇雄 武田 正之	泌尿器科学
88	腎と透析 別冊アクセス2009 66別冊:49-52	ペリトネアルアクセス留置術のコツと工夫	深澤 瑞也	泌尿器科学
89	Yamanashi Med. J 24(1):33-37	Simultaneous management for retrocaval ureter and ipsilateral renal stone using retroperitoneoscopic approach:report of a case	Shouji Suzuki Norifumi SAWADA Yaburu Haneda Hidenori Zakoji Takayuki Tsuchida Masami Aikawa Isao Araki Masayuki Takeda	泌尿器科学
90	前立腺がん検診ガイドライン 2010年増補版	監修	野々村 克也 塚本 泰司 羽瀨 友則 武田 正之 高橋 悟 本間 之夫 馬場 志郎	泌尿器科学
91	重篤副作用疾患別対応マニュアル 第3集 398-417	尿閉・排尿困難	西沢 理 横山 修 後藤 百万 武田 正之 高橋 悟	泌尿器科学
92	重篤副作用疾患別対応マニュアル 1-25	尿閉・排尿困難	西沢 理 横山 修 後藤 百万 武田 正之 高橋 悟	泌尿器科学
93	透析療法事典 第2版 424-425	横隔膜交通症(胸水貯留)	深澤 瑞也	泌尿器科学
94	透析療法事典 第2版 423-424	乳糜腹水の原因と診断	深澤 瑞也	泌尿器科学
95	透析療法事典 第2版 422	陰囊水種の原因と治療法	深澤 瑞也	泌尿器科学
96	透析療法事典 第2版 421-422	第5章 腹膜透析 腹壁ヘルニアの原因と治療法	深澤 瑞也	泌尿器科学

No.	雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
97	4寝学 23-28	夜間頻尿診療ガイドライン	本間 之夫 荒木 勇雄	泌尿器科学
98	2夜間頻尿とは 10-12	夜間頻尿診療ガイドライン	武田 正之 横山 修	泌尿器科学
99	夜間頻尿診療ガイドライン 1-9	1診療アルゴリズム	山口 脩 西沢 理 後藤 百万 柿崎 秀宏 荒木 勇雄 石塚 修 武田 正之	泌尿器科学
100	INCONTINENCE 116-166	Committee 2 Cell Biology	C. H Fry A. J Kanai A. Roosen Masayuki Takeda D. N Wood	泌尿器科学
101	International Journal of Urology 16(2):126-142	Clinical guidelines for overactive bladder	Osamu Yamaguchi Osamu Nishizawa Masayuki Takeda Osamu Yokoyama Yukio Honma Hidehiro Kakizaki Kenji Obara Momokazu Gotoh Yasuhiro Igawa Narihito Seki	泌尿器科学
102	LUTS 1:S18-S21	Mechanosensitive ion channels in bladder sensory trasduction	Isao Araki DU SHUQI Mitsuharu Yoshiyama Masayuki Takeda	泌尿器科学
103	Journal of Pharmacological sciences 112(2):121-127	The forefront for novel therapeutic agents based on the pathophysiology of lower urinary tract dysfunction: pathophysiology of voiding dysfunction and pharmacological therapy	Masayuki Takeda Isao Araki Tsutomu Mochizuki Hiroshi Nakagomi Hideki Kobayashi Norifumi SAWADA Hidenori Zakoji	泌尿器科学
104	International Journal of Urology 17(5):397-409	Guidelines Clinical guidelines for nocturia	Osamu Nishizawa Isao Araki Osamu Ishizuka Naohisa Uchimura Hitoshi Oh-oka Seiichiro Ozono Hidehiro Kakizaki Masato Kasahara Momokazu Gotoh Ryuji Sakakibara Hitoshi Shinbo Kimio Sugaya Yasuyuki Suzuki Atsushi Sone Mineo Takei Masayuki Takeda Akihide Hirayama Yukio Honma Osamu Yamaguchi Tomonori Yamanishi Osamu Yokoyama Masaki Yoshida	泌尿器科学

No.	雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
105	EUROPEAN UROLOGY 56:168-176	Editorial Comment on: The loss and progressive recovery of voiding after spinal cord interruption in rats associated with simultaneous changes in autonomous contractile bladder activity.	Masayuki Takeda	泌尿器科学
106	Video library of the American Urological Association	Operative difficult points in the Laparoscopic adrenalectomy for giant pheochromocytoma: Comparison between rit	Hideyasu Inuzuka Isao Araki Takayuki Tsuchida Syoudji Kudou Masayuki Takeda	泌尿器科学
107	Acta Ophthalmologica 87: 419-423	Temporal changes in retinal thickness after removal of the epiretinal membrane	Aso H, Iijima H	眼科
108	Jpn J Ophthalmol 53:281-282	Humphrey perimetry as a predictor of visual improvement after photodynamic therapy	Imasawa M	眼科
109	Jpn J Ophthalmol 53:588-592	Photodynamic therapy for polypoidal choroidal vasculopathy: baseline perimetric results and visual outcomes	Imasawa M	眼科
110	Ophthalmic Res 42:193-198	Changes in anterior chamber depth due to contusion	Kashiwagi K	眼科
111	Mol Vis 15:1045-1049	Lack of association between p53 gene polymorphisms and primary open angle glaucoma in the Japanese population	Mabuchi F	眼科
112	Am J Ophthalmol 149:826-830	Estrogen receptor beta gene polymorphism and intraocular pressure elevation in female patients with primary open-angle glaucoma	Mabuchi F	眼科
113	Retina 29:1522-1526	Angiographic lesion size associated with LOC387715 A69S genotype in subfoveal polypoidal choroidal vasculopathy	Sakurada Y	眼科
114	Jpn J Ophthalmol 53:494-500	Sectoral thinning of the retina after branch retinal artery occlusion	Takahashi H	眼科

No.	雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
115	日本耳鼻咽喉科感染症研究会誌 27(1):157-160	耳鼻咽喉科軟性ファイバースコープ(電子スコープ)の再生処理(洗浄・消毒)方法に関するアンケート調査-開業医師を対象として-	上條 篤 高橋 吾郎 遠藤 周一郎 前之園 美地子 増山 敬祐	耳鼻咽喉科・頭頸部外科
116	最近経験した上顎骨髄炎の1症例 27(1):209-212	最近経験した上顎骨髄炎の1症例	増山 敬祐 高橋 吾郎 上條 篤	耳鼻咽喉科・頭頸部外科
117	FEBS LETT 583(12):2088-2092	House dust mite allergen Der f 1 can induce the activation of latent TGF-beta via its protease activity.	Nakamura Y, Miyata M, Shimokawa N, Ohnuma Y, Katoh R, Ogawa H, Okumura K, Nakao A	耳鼻咽喉科・頭頸部外科
118	J NUTR 139(8):1463-1468	The latent form of transforming growth factor- β administered orally is activated by gastric acid in mice.	Nakamura Y, Miyata M, Andoh T, Shimokawa N, Ohnuma Y, Katoh R, Ogawa H, Okumura K, Nakao A	耳鼻咽喉科・頭頸部外科
119	The Journal of Nutrition 1463-1468	The Latent Form of Transforming Growth Factor- β Administered Orally Is Activated by Gastric Acid in Mice	Nakamura Y, Miyata M, ANDO T, Shimokawa N, Ohnuma Y, Katoh R, Ogawa H, Okumura K	耳鼻咽喉科・頭頸部外科
120	J IMMUNOL 183(2):1368-1374	A subcytotoxic dose of subtilase cytotoxin prevents lipopolysaccharide-induced inflammatory responses, depending on its capacity to induce the unfolded protein response.	Harama D, Koyama K, Mukai M, Shimokawa N, Miyata M, Nakamura Y, Ohnuma Y, Ogawa H, Matsuoka S, Paton AW, Paton JC, Kitamura M	耳鼻咽喉科・頭頸部外科
121	Journal of The Japan Society for Welfare Engineering 日本福祉工学会誌 11(2):37-42	Improvement of listening to public announcements by amplitude compression (I) Listening of normal-hearing persons under noisy environments 振幅圧縮処理による音声案内の聴き取り改善 (I) 健聴者の騒音下の聴き取り	加藤 隆也、服部 遊、鈴木 裕、阪田 治、今村 俊一、遠藤 周一郎、水越 昭仁、増山 敬祐	耳鼻咽喉科・頭頸部外科
122	Eur J Immunol 39(11):3078-3083	Thymic stromal lymphopoietin is a critical mediator of IL-13-driven allergic inflammation.	Miyata M, Nakamura Y, Shimokawa N, Ohnuma Y, Katoh R, Matsuoka S, Okumura K, Ogawa H, Masuyama K, Nakao A	耳鼻咽喉科・頭頸部外科
123	JOURNAL OF COMPUTER ASSISTED TOMOGRAPHY 33(2):266-272	Imaging of small hepatic Metastases of Colorectal Carcinoma: How to use superparamagnetic Iron Oxide-Enhanced Magnetic Resonance Imaging in the Multidetector-Row Computed Tomography Age?	Utarou MOTOSUGI Tomoaki ICHIKAWA Hiroto NAKAJIMA Hironobu SOU Mika SANO Katuhiko SANO Tsutomu ARAKI Hiroshi IINO Hideki FUJII Tadao NAKAZAWA	放射線科
124	Journal of Magnetic Resonance Imaging 30:214-218	Time-Resolved Three-Dimensional Magnetic Resonance Digital Subtraction Angiography without Contrast Material in the Brain: initial Investigation	Masaaki HORI nobuyuki SHIRAGA yasushi WATANABE Shigeki AOKI sachiko ISONO Masao YUI Kuni OHTOMO Tsutomu ARAKI	放射線科

No.	雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
125	Journal of Magnetic Resonance Imaging 30:849-854	Dilution Method of Gadolinium Ethoxybenzyl Diethylenetriaminepentaacetic Acid (Gd-EOB-DTPA)-Enhanced Magnetic Resonance Imaging (MRI)	Utarou MOTOSUGI Tomoaki ICHIKAWA Hironobu SOU Katuhiro SANO tominaga rihito Tsutomu ARAKI	放射線科
126	Radiology International 59:744-747	Small invasive ductal adenocarcinoma of the pancreas associated with lymphoplasmacytic sclerosing Pancreatitis	Utarou MOTOSUGI Tomoaki ICHIKAWA hiroshi YAMAGUCHI tadao NAKAZAWA Ryohei KATO Jun ITAKURA Hideki FUJII Tadashi SATO Tsutomu ARAKI	放射線科
127	LUNG CANCER 66:80-84	Radiology contributes to better cytological diagnosis of lung tumors	Utarou MOTOSUGI Tomomi KATO Yasuo KAMAKURA Tomoko SAZE Takashi SUZUKI Saki YAJIMA Yoshihiko SHIMIZU Shinichi MURATA Michio SHIMIZU Tomoaki ICHIKAWA Tsutomu ARAKI	放射線科
128	JOURNAL OF COMPUTER ASSISTED TOMOGRAPHY 33(5):682-688	Cholangiolocellular Carcinoma of the Liver: Imaging Findings	Utarou MOTOSUGI Tomoaki ICHIKAWA Hiroto NAKAJIMA Tsutomu ARAKI Masanori MATSUDA Tetsuya SUZUKI Hideki FUJII Tadao NAKAZAWA	放射線科
129	EUROPEAN RADIOLOGY 19:2623-2629	Delay before the hepatocyte phase of Gd-EOB-DTPA-enhanced MR imaging: Is it possible to shorten the examination time?	Utarou MOTOSUGI Tomoaki ICHIKAWA tominaga rihito Hironobu SOU Katuhiro SANO Tsutomu ARAKI	放射線科
130	PATHOLOGY INTERNATIONAL 59(10):744-7	Small invasive ductal adenocarcinoma of the pancreas associated with lymphoplasmacytic sclerosing pancreatitis.	Utarou MOTOSUGI Tomoaki ICHIKAWA H YAMAGUCHI Tadao NAKAZAWA Ryohei KATO Jun ITAKURA Hideki FUJII T SATO Tsutomu ARAKI Michio SHIMIZU	放射線科
131	THYROID 19(5):535-537	Thyroid Papillary Carcinoma with Micropapillary and Hobnail Growth Pattern: A Histological Variant with Intermediate Malignancy?	Utarou MOTOSUGI Shinichi MURATA Kouji NAGATA Masanori YASUDA Michio SHIMIZU	放射線科
132	日本顎変形症学会雑誌 19(4):235-237(2009)	顎矯正手術 -私の術式- 馬蹄形骨切り併用Le Fort I型骨切り術	原田 清	歯科口腔外科学
133	小児口腔外科 19(2):99-104 (2009)	顎裂の骨移植	原田 清	歯科口腔外科学
134	Circulation 120, 2088-2094,	Human C-reactive protein does not promote atherosclerosis in transgenic rabbits.	Koike T, Kitajima S, Yu Y, Nishijima K, Zhang J, Ozaki Y, Morimoto M, Watanabe T, Bhakdi S, Asada Y, Chen YE, Fan J.	臨床検査医学

No.	雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
135	Journal of Atherosclerosis and Thrombosis 16: 878-87	Assessment of an ELISA kit for platelet-derived microparticles by joint research at many institutes in Japan.	Nomura S, Shouzu A, Taomoto K, Togane Y, Goto S, Ozaki Y, Uchiyama S, Ikeda Y.	臨床検査医学
136	J Anesth 23: 151-153, 2009	Intravenous famotidine does not always change core temperature during general anesthesia	Sato H, Yamakage M, Okuyama K, Imai Y, Iwashita H, Masamune T, Ishiyama T, Matsukawa T	手術部
137	J Clin Anesth 21: 190-193,	The effective time and concentration of nitrous oxide to reduce venipuncture pain in children	Furuya A, Ito M, Fukao T, Suwa M, Nishi M, Horimoto Y, Sato H, Okuyama K, Ishiyama T, Matsukawa T	手術部
138	Anesth Analg 109: 96-100	The shivering threshold with JM-1232(-), a new benzodiazepine site agonist, in rabbits	Masamune T, Sato H, Okuyama K, Imai Y, Iwashita H, Ishiyama T, Oguchi T, Sessler DI, Matsukawa T	手術部
139	Eur J Anaesthesiol 26: 566-71, 2009	Forced-air warming after intramuscular midazolam premedication prevents core hypothermia in volunteers	Sato H, Yamakage M, Okuyama K, Imai Y, Iwashita H, Ishiyama T, Matsukawa T	手術部
140	麻酔と蘇生 45: 55-59, 2009	フェンタニルの静脈内自己調節鎮痛を用いた小児の術後嘔吐の検討	佐藤宏明, 石山忠彦, 飯嶋哲也, 奥山克己, 松川隆	手術部
141	麻酔 58: 467-469, 2009	ロピバカインによる腕神経叢ブロック後全身痙攣を来した1症例	市川学, 石山忠彦, 渋谷和広, 松川隆	手術部
142	麻酔 58: 649-651, 2009	もやもや病を合併した妊婦に対する帝王切開術の麻酔経験	浅野伸将, 石山忠彦, 杉原景子, 松川隆	手術部
143	J Anesth 23: 307, 2009	Inadvertent intra-arterial injection of propofol in a patient under general anesthesia	Mitani S, Ishiyama T, Matsukawa T	手術部
144	J Anesth 23: 637-638, 2009	Transient sinus arrest during continuous infusion of landiolol in an elderly patient	Ichikawa M, Ishiyama T, Shibuya K, Matsukawa T	手術部

No.	雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
145	麻酔 58: 1310-1312, 2009	慢性閉塞性肺疾患患者の急性虫垂炎手術の麻酔経験	新谷則之, 石山忠彦, 渋谷和広, 市川学, 大川岩夫, 松川隆	手術部
146	麻酔 59: 366-368, 2010	片肺換気中にMobitz II型ブロックを呈した1症例	渋谷和広, 石山忠彦, 市川学, 小口健史, 松川隆	手術部
147	Eur J Pharmacol. [Epub ahead of print]	Phenyl methimazole suppresses dextran sulfate sodium-induced murine colitis.	Benayides U, Gonzalez-Murguiondo M, Harii N, Lewis CJ, Sakhalkar HS, Deosarkar SP, Kurjiaka DT, Dagia NM, Goetz DJ, Kohn LD.	地域医療学
148	Biochem Biophys Res Commun. 2010 Jan 1;391(1):890-4.	Thyroglobulin (Tg) induces thyroid cell growth in a concentration-specific manner by a mechanism other than thyrotropin/cAMP stimulation.	Noguchi Y, Harii N, Giuliani C, Tatsuno I, Suzuki K, Kohn LD.	地域医療学
149	Clin Cancer Res. 2009 Jun 15;15(12):4114-22.	Phenylmethimazole decreases Toll-like receptor 3 and noncanonical Wnt5a expression in pancreatic cancer and melanoma together with tumor cell growth and migration.	Schwartz AL, Malgor R, Dickerson E, Weeraratna AT, Slominski A, Wertsman J, Harii N, Kohn AD, Moon RT, Schwartz FL, Goetz DJ, Kohn LD, McCall KD.	地域医療学

計149件

- (注) 1 当該医療機関に所属する医師等が、掲載に当たって審査を行っている雑誌に研究成果を原著論文として申請の前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断されるものを100件以上記入すること(当該医療機関に所属する医師等が主たる研究者であるものに限る。)
 2 「発表者氏名」欄は、1つの論文発表について発表者が複数いる場合は、主たる発表者の氏名を記入すること。

(様式12)

診療並びに病院管理及び運営に関する諸記録の管理方法

責任管理者氏名	病院長 島田 眞路
管理担当者氏名	総務課長 市川 雅一、医事課長 相川 勝則、経営企画室長 山田 徹

諸 記 録		保管場所	管 理 方 法	
診療に関する諸記録 病院日誌, 検査所見記録, 紹介状, 退院した患者に係る入院期間中の診療経過の 要約及び入院診療計画書, 手術記録 処方せん 看護記録 各科診療日誌, エックス線写真		病歴室 薬剤部 看護部 各診療科	カルテ及び検査所見記録等は, 1患者1ファイルで, すべて病歴室 で一元管理している。	
病院の管 理及び運 営に関す る諸記録	従業員数を明らかにする 帳簿	総務課	病院の管理及び運営に関する諸記 録は, 左の保管場所で保存管理 している。	
	高度の医療の提供の実績	医事課		
	高度の医療技術の開発及 び評価の実績	総務課		
	高度の医療の研修の実績	総務課		
	関 覧 実 績	総務課		
	紹介患者に対する医療提 供の実績	医事課		
	入院患者数, 外来患者数 及び調剤の数を明らかに する帳簿	医事課 薬剤部		
	第1号に掲げる体制の確保の状況	医療に係る安全管理のため の指針の整備状況		安全管理室
		医療に係る安全管理を行う ための委員会の開催状況		安全管理室
		医療に係る安全管理の ための職員研修の実施 状況		安全管理室
		医療機関内の事故報告 等の医療に係る安全の 確保を目的とした改善 のための方策の状況		安全管理室
		専任の医療に係る安全管理 を行う者の配置状況		安全管理室
		専任の院内感染対策を 行う者の配置状況		総務課
医療に係る安全管理を行う 部門の設置状況		安全管理室		
当該病院内に患者からの 安全管理に係る相談に 適切に応じる体制の確保 状況	安全管理室			

諸 記 録		保管場所	分 類 方 法	
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第1条の1第1項各号及び第9条の2第3第1項第1号に掲げる体制の確保の状況	院内感染のための指針の策定状況	総務課	病院の管理及び運営に関する諸記録は、左の保管場所で保存管理している。
		院内感染対策のための委員会の開催状況	総務課	
		従業者に対する院内感染対策のための研修の実施	総務課	
		感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の実施状況	総務課	
		医薬品の使用に係る安全な管理のための責任者の配置状況	薬剤部	
		従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	薬剤部	
		医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	薬剤部	
		医薬品の安全使用のために必要となる情報の収集その他医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	薬剤部	
		医療機器の安全使用のための責任者の配置状況	MEセンター	
		従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	MEセンター	
		医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	MEセンター	
医療機器の安全使用のために必要となる情報の収集その他医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	MEセンター			

(注)「診療に関する諸記録」欄は、個々の記録について記入する必要はなく、全体としての管理方法の概要を記入すること。

(様式第13)

病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法及び紹介患者に対する医療提供の実績

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法

閲覧責任者氏名	病院長 島田 眞路
閲覧担当者氏名	総務課長 市川 雅一、医事課長 相川 勝則、病院経営企画室長 山田 徹
閲覧の求めに応じる場所	総務課、医事課、病院経営企画室

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧の実績

前年度の総閲覧件数		延	4件
閲覧者別	医師	延	件
	歯科医師	延	件
	国	延	1件
	地方公共団体	延	3件

○紹介患者に対する医療提供の実績

紹介率	67.4%	算定期間	平成21年4月1日～平成22年3月31日
算出根拠	A: 紹介患者の数	10,348人	
	B: 他の病院又は診療所に紹介した患者の数	5,523人	
	C: 救急自動車によって搬入された患者の数	664人	
	D: 初診の患者の数	19,025人	

(注) 1 「紹介率」欄は、A、B、Cの和をBとDの和で除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。
2 A、B、C、Dは、それぞれの延数を記入すること。

(様式 13-2)

規則第 1 条の 1 1 第 1 項各号及び第 9 条の 2 3 第 1 項第 1 号に掲げる体制の確保状況

① 医療に係る安全管理のための指針の整備状況	有・無
<p>・指針の主な内容：</p> <ul style="list-style-type: none">(1) 医療機関における安全管理に関する基本的考え方<ul style="list-style-type: none">・医療安全の基本的考え方(2) 医療機関に係る安全管理のための委員会その他医療機関内の組織に関する基本的事項<ul style="list-style-type: none">・安全管理の体制を確保するために、安全管理委員会及び安全管理室の設置・医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者の設置・安全管理のための責任者（リスクマネジャー）を定め、病院の安全管理の体制確保に努める(3) 医療に係る安全管理のための職員研修に関する基本方針<ul style="list-style-type: none">・安全体制の確保のために、職員研修の企画・実施(4) 医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策に関する基本方針<ul style="list-style-type: none">・「医療事故等発生報告書」「状況報告書」「インシデントレポート」の入力、報告及び対策・安全管理のためのマニュアルを整備し、安全管理委員会に届け出る(5) 医療事故等発生時の対応に関する基本方針<ul style="list-style-type: none">・事故発生時の対応マニュアルの整備および事故発生時の対応(6) 医療従業者と患者との間の情報の共有に関する基本方針（患者等に対する当該指針の閲覧に関する基本方針を含む。）<ul style="list-style-type: none">・患者への情報提供(7) 患者からの相談への対応に関する基本方針<ul style="list-style-type: none">・患者相談対応	
② 医療に係る安全管理のための委員会の開催状況	年 13 回
<p>・活動の主な内容：</p> <ul style="list-style-type: none">(1) 安全管理体制の整備、安全管理のためのマニュアル整備(2) 医療事故等の防止及び発生時の対応(3) 使用する医薬品、医療機器の安全管理(4) 安全管理のための職員研修(5) 患者に重篤な傷害が生じた場合の対応、原因分析、改善策の立案・実施、職員への周知(6) 立案した改善策の実施状況の調査及び見直し。(7) 医療従事者と患者との情報の共有(8) 患者からの相談への対応	
③ 医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	年 7 回
<p>・研修の主な内容：</p> <ul style="list-style-type: none">(1) 安全管理体制講演会・・・2回(2) 医療安全活動報告会・・・2回(3) 事例検討会・・・3回	
④ 医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の状況	
<p>・医療機関内における事故報告等の整備 (有) 無)</p> <p>・その他の改善のための方策の主な内容：</p> <ul style="list-style-type: none">(1) 『インシデントレポートシステム』による運用を行っており、インシデントレポートの第 1 報が入力されると、あらかじめ決められた安全管理室員（①室員）が内容を把握し、関連する部門のリスクマネジャーに情報を伝える。情報を受けた各リスクマネジャーはインシデントの状況確認及び原因	

の詳細説明，再発防止策を検討し，第2報として報告する。第2報は，担当する安全管理室員（②室員）が内容を検討し，内容が不十分な場合は担当のリスクマネージャーに差し戻し再検討を依頼する。十分の場合は保存レポートとして終了する。

(2) 提出された内容に基づき，重要事例について安全管理委員会及び安全管理室会議において組織としてのインシデントの分析及び問題点を検討する。必要に応じて部署事例検討会を開催し，より実践に即した具体的分析・検討を行う。

(3) 上記で検討された内容に対し，重要事例について安全管理室会議，安全管理委員会で改善策が検討され，その結果はリスクマネージャー会議で報告及び意見交換され，「リスクマネージャー会議便り」として各部署に報告・周知を行ない実行に移している。特に重要と考えられるインシデントについては，インシデント内容，改善策等をリスクマネージャーニュースとして発行し周知徹底している。また必要に応じてゼネラルリスクマネージャーが直接指導し実行に移している。

⑤ 専任の医療に係る安全管理を行う者の配置状況	有 (2名)・無
⑥ 専任の院内感染対策を行う者の設置状況	有 (1名)・無
⑦ 医療に係る安全管理を行う部門の設置状況	有・無
<p>・所属職員： 専任（ 2 ）名 兼任（ 25 ）名</p> <p>・活動の主な内容：</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) 安全管理委員会及び医療事故調査委員会に関する事項 (2) 事故等に関する診療録及び看護記録等への記載が正確かつ十分にされているかの確認及び必要な指導 (3) 事故発生時の患者及び家族への対応状況の確認及び必要な指導 (4) 事故等の原因究明が適切に実施されていることの確認及び必要な指導 (5) 医療安全に係る連絡調整に関する事項 (6) インシデントレポート及び状況報告書の確認 (7) インシデント等に関する調査及び分析 (8) 改善策の検討及び策定 (9) 職員に対する情報提供 (10) 改善策の実施状況の監視及び指導 (11) 医療事故防止マニュアルの見直し (12) 安全対策に関する教育の企画及び実施 	
⑧ 当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況	有・無

(様式第13-2)

院内感染対策のための体制の確保に係る措置

① 院内感染対策のための指針の策定状況	有 無
・指針の主な内容： 組織、感染対策マニュアル、リンクドクター等、院内感染発生時の対応・報告の義務、研修の実施、指針の閲覧に関する事項など	
② 院内感染対策のための委員会の開催状況	年 12 回
・活動の主な内容： ①定例会議・緊急会議の開催 ②感染症サーベイランスの実施・評価 ③感染症アウトブレイクの対応 ④感染対策の実施状況の調査・指導 ⑤感染対策に関する教育啓蒙活動（職員・学生） ⑥感染コンサルテーション ⑦職員への職業感染対策推進 ⑧感染対策に関する情報収集 ⑨感染性廃棄物処理の監視及び指導 ⑩感染対策マニュアルの更新	
③ 従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	年 2 回
・研修の主な内容： ①「院内感染と裁判」 ②「新型インフルエンザの動向と対策」	
④ 感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の状況	・病院における発生状況の報告等の整備 (有 無) ・その他の改善のための方策の主な内容： ①感染対策委員会・感染対策チーム・感染制御室会議における方策の検討・決定・実施 ②院内ラウンドの実施及び指導 ③感染対策チーム員を通して重要事項を各部署へ伝達するとともに各部署からの意見を報告してもらっている。 ④感染対策マニュアルの改訂

(様式 13-2)

医薬品に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医薬品の使用に係る安全のため責任者の配置状況	<input checked="" type="radio"/> 有 <input type="radio"/> 無
② 従事者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	年 2 回
<ul style="list-style-type: none">・研修の主な内容・研修の主な内容<ol style="list-style-type: none">1 医薬品安全管理小委員会の役割について2 薬剤部における安全活動への試みについて	
③ 医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	
<ul style="list-style-type: none">・手順書の作成 (<input checked="" type="radio"/> 有 <input type="radio"/> 無)・業務の主な内容： 医薬品安全管理手順書に基づく業務チェックリストを作成し、院内に配付した。 業務チェックリストに基づき医薬品安全管理小委員会委員が巡回しチェックした。	
④ 医薬品の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策	
<ul style="list-style-type: none">・医薬品に係る情報の収集の整備 (<input checked="" type="radio"/> 有 <input type="radio"/> 無)1 その他の改善のための方策の主な内容<ul style="list-style-type: none">・医薬品情報室に専任の薬剤師を配置している。・機構のホームページにて最新の添付文書を閲覧している。・MRに変更添付文書の提出を依頼している。・調剤棚や注射薬棚に添付文書を保管し、薬品補充時に添付文書変更があれば差し替えている。・企業より添付文書集を入手し、D I 室および調剤室に保管している2 周知方法<ul style="list-style-type: none">・ 薬剤部にて医薬品情報やD I - BOXなどの情報誌に編集し、院内・医療関係者に配布している。この情報はオーダーリングシステムの電子掲示板に掲載し、バックナンバーを参照できるようにしている。・ 特定の診療科に対して重要な情報は、当該診療科により詳細な情報を提供している。・ 重大な副作用発現など重大な情報は、これまでに使用した医師を処方歴から調査し、医師個人宛に情報提供している。・ 病院全体に提供すべき重大な情報について、既読者リストを貼付し、情報を読んだ者の氏名を記載してもらい返送をお願いし、未読者に連絡する。・ 医薬品集を定期的に発行している。	

(様式 13-2)

医療機器に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医療機器の安全使用のため責任者の配置状況	有 無
② 従事者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	年6回
・研修の主な内容 使用方法、警報発生時の対処方法、始業前点検事項、安全機構、故障・不具合発生時の対応	
③ 医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	
・計画の作成 (有・無) ・保守点検の主な内容： 外観検査、機能条件検査、機械的検査、電気的検査、安全性検査、消耗部品交換	
④ 医療機器の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策実施状況	
・医療機器に係る情報の収集の整備 (有・無) ・その他の改善のための方策の主な内容 1. インシデントレポート 2. リスクマネージャー会議だより 3. MEセンターからのお知らせ	